

# QOLの向上を目指して

お客さまの生活を見すえ、より良いサロンパス®の提供を続けています



発売初期のパッケージ

## 久光製薬が考えるQOLとは

人は病を抱えるとその不快感のために、夜眠れない、不安・怒り・悲しみを感じるなど、様々な問題に悩まされます。この状態を放置すると孤独感、焦燥感などから生きる気力をなくすこともあるとされています。このような患者さまの苦しみを少しでも癒して、元気な暮らしのお役に立ちたい。それが私たちの経営理念「世界の人々のQOL向上を目指す」ことだと考えています。

## QOL向上を目的として生まれたサロンパス®

当社は弘化4年（1847年）の創業以来、外用鎮痛消炎剤を中心とした医薬品を世に送り出してきました。その先駆となったのがサロンパス®です。柳の皮に含有されるサリチル酸の誘導体を、薄荷油（1-メントール）やビタミンE、カンフルなどと共に天然ゴム基剤に混ぜてスフ製基布に展延し、貼りやすいサイズに裁断した白色プラスターです。「患部に貼ることで、速く痛みを取り除いて欲しい」という思いから生まれたサロンパス®が、患部を優しく、さする手になってほしい、そう考えています。

## サロンパス®の誕生とその歴史

当初の外用剤はごま油や蜜ろうに有効成分を練りこんだいわゆる、塗り膏薬という形で登場しました。皮膚に適用する際、手指でのばすのは面倒であること、衣服を汚してしまうなどの問題を解決するために、この塗り膏薬を和紙などに伸ばし、使いやすくなったものが、貼り膏薬（プラスター）です。当社で最初に商品化されたのがごま油に鉛丹を混ぜ合わせたものを和紙に伸ばした「朝日万金膏®」です。黒い膏薬として、多くの方に愛されていました。しかし、ごま油特有の匂いがある、和紙からの染み出しがある、硬膏であるため貼る前に火鉢の上などで焙る必要があり、皮膚への付着性にバラつきがある、皮膚への残りがあ、効き目が弱いなどの問題がありました。これらの欠点を解消した製品として開発されたのが、真白な清潔感のある外観に薄荷の清涼感を持ち、そのまま患部に貼ることができるサロンパス®です。現在のように機械もない中、それまで経験したことのない技術の特殊性に苦しみながら、課題を一つ一つ解決し、製品化することができました。その製品には主成分であるサリチル酸メチルと硬膏を意味するプラスターをヒントにサロンパス®と命名され、市場に送り出されました。誕生当時のサロンパス®のケースデザインに入っているラクダとピラミッドの透かしは、「楽になりますように」、即ち「QOL向上」の思いが込められています。



朝日万金膏®

## 痛みを抑えるために

サロンパス®の改善は、使用される方の痛みを考え、QOLの向上を追求してきた結果です。薬の効果を最大限に活かした商品とするために、常に最新の知見を検証し、改善を行ってきました。薬効成分はもちろんのこと、痛みの原因を考慮し適切な治療となるよう改善を図ってきました。

## 皮膚へのやさしさ

貼付薬の形状が持っている本来的な性質として、皮膚との接着が避けられません。そのため、皮膚への刺激を抑えることもサロンパス®の重要な課題として改善を続けてきました。長く使用することを前提に、成分の改善や、通気性の確保などの開発を行ってきました。

### 改善の推移



1971年：患部は、炎症などにより熱を持ち、それが痛みとして感じられることから、冷感成分を付与して鎮痛効果の改善を図りました。



現在



1975年：腰痛などの痛みは、血行を良くすることで改善効果があることから、慢性的な痛みへの対応として温感タイプを開発しました。



現在

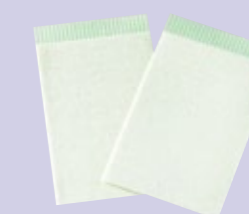
### 改善の推移



1986年：植物性成分を配合し、肌に優しいタイプを開発しました。



1986年：かぶれ防止への対応として通気性を良くするため、穴あきタイプを開発しました。



1997年：かぶれに関する改良を重ねたサロンパスA®を開発しました。

